



支援先グループ名	支援国名	今年度支援額 [送金月]	支援・活動内容他
1 PSHF (フィリピン自立援助基金) Philippine Self Help Foundation	フィリピン	400,000 円 [16.6]	所得向上のための少額ローンを個人またはグループに貸付けることで支援するプロジェクトです。5つのプロジェクトを支援しました。 ①フェリシダッド・ダゴイ: 2012年に孫の手術のために質入れした4分の3ヘクタールの水田を取り戻すためのローン申請。増収分で壊れた壁の修理をする予定です。②チミー・アマロー: 安いローンで水牛(犁)を買い、サウキビ用の土地(3ha)を購入するためにローンを申請。近所の耕作の下請けもできるので、増収が見込まれます。③ヘルミロ・ドゴイ: 水牛購入のためにローン申請。水牛の借り代を節約でき、増収が見込まれます。その分が一番下の娘の大学の学費を支払うことができます。④マリア・ギナ・イングルス: 美容室を営んでおり、サービス向上のためにリクライニングチェア1台とハンドシャワーを設置し、裏庭に排水設備を作るためにローンを申請。現在は手おけと洗面器を使用、排水は庭に溜まります。⑤ディマ・マリアスとヴィヴィアン・スサスコ: 母娘で1haの土地(ココヤシの木40本もある)を10年借りのためローンを申請。そこで自給自足に十分な野菜等の栽培が可能になり、余剰分は販売できます。ココヤシの実のココナッツからは、現金収入になるコブラ(石けんやマーガリンの原料)も取れるので、余剰分の野菜販売収入分と合わせると、年収が約105,000円となり大幅に増えます。
 ダゴイさん一家	 アマローさん一家	*91年～ 毎年支援	
2 AVILASH アビラッシュ (AVILASH-A Voluntary Welfare Organisation for Women)	インド/カルカッタ	100,016 円 [16.12]	1989年アジア学院の卒業生により設立。自立支援と教育を目的とした活動を通じ、女性による所得向上プロジェクトも行っています。「美容師職業訓練(6ヵ月コースx2回実施)」には、合計31名の女性が参加しました。訓練で技術を習得後は、美容室で働いたり、個別訪問でお祭りや結婚式のための美容やトリートメントを行ったりして、追加収入を得ることができるようになりました。貧しい家族の所得向上が期待されます。「アトクリシュナランブールの託児所」には、低所得層の両親をもつ20人の子供たち(2-6才)が通っています。基本的な教育や、学校に通う習慣を身に付けています。託児所に通った子供たちは、小学校に行っても平均して成績は良く、脱落者が少ないそうです。
 美容師職業訓練		*93年～ 毎年支援	
3 カラ=西アフリカ農村自立協力会 Association Pour Cooperation L-Autogestion Rural en Afrique d'Ouest	マリ	200,000 円 [17.2]	職業訓練、保健、教育の村単位のプロジェクトを行なっています。代表の村上一枝氏は、砂漠化の進む西アフリカの農村に住む人たちが自らの意志、力で生活自立できるようにプロジェクトを進めています。バグ村女性野菜園(0.5ha)の家畜避け防護柵の建築費用(一部)を支援しました。1994年開設後、修繕を行なうも金網柵の腐食破壊や、家畜の食害で使用不可能でした。野菜園復活で、①野菜の収穫が1年中可能 ②食材が豊かに ③野菜販売が収入源に ④子供の栄養不足改善 ⑤未熟児誕生の減少 ⑥家庭内、地域経済の向上 ⑦女の子の出稼ぎ減少(村で収入獲得が可能) ⑧運営管理を通じて、女性間の連帯感、結束力が強くなる、という成果がありました。次は、女性健康普及員の育成事業を支援します。
 女性野菜園		*94年～ ほぼ毎年支援	
4 (学) アジア学院 (アジア農村指導者養成専門学校)	日本	100,000 円 [17.5]	アジアその他、発展途上国の農村地域社会の人々の生活向上と繁栄に献身する中堅指導者の養成を目的として、栃木県那須塩原市に1973年に設立された学校法人です。有機農業による自給自足の生活を基盤とした研修を行っています。卒業生が母国に戻り、自らNGOを始めたり、既存の団体に参加して、WFFやILCAにコンタクトしてきています。毎年、15～16ヵ国から25～30人が農村指導者養成の研修プログラムに参加し、9ヵ月間、いのちを支える「たべもの」作りにこだわり、有機農業による自給自足の生活を基盤として、自国のコミュニティの自立を導けるよう学びます。研修後は母国のコミュニティのために、リーダーとして人々と共に歩みます。2017年はアジア、アフリカなど14ヵ国、24名の学生と1名の研究科生を迎えました。
 入学式		*94年～ 毎年支援	
5 SEEDS シーズ (Socio-Economic Educational Development Service India: 社会・経済・教育・開発サービス)	インド/南部ケララ	218,160 円 [16.6]	1989年にアジア学院の卒業生のマッシュー牧師が設立。カーストの低い人々、障害を持つ人々が自活できるように、雇用の場を作ったり託児所の開設、母親の衛生教育、苗木の育成・配布などを実施。夫人は、聾啞の女性の自活のために、菩提樹の葉のカード作りプロジェクトを実施しており、ILCAでも販売しています。「鶏小屋プロジェクト」は、3つの不可蝕民の村で12(昨年12)のダリトの家族に鶏小屋を配布しました。昨年の受益者たちが38羽(昨年は43羽)のひよこを提供、飼育方法の伝授と共に、獣医師による1日講習も行ないました。最も貧しい家庭への配布を中心に考えています。「洋裁プロジェクト」は、26人(昨年28)の女性を対象に訓練を行ないました。費用削減のため、訓練用の材料(中古衣料他)を持参しました。成績優秀者へのミシン贈呈は予算が厳しくできませんでしたが、皆、自分の努力でミシンを持っています。
 鶏小屋プロジェクト		*95年～ 毎年支援	
6 エキュメニカル開発基金 Ecumenical Development Foundation	ザンビア	110,681 円 [16.6]	リーダーのジョン・ニョンドさんとジュディス・ダカさんご夫妻は、いずれもアジア学院の卒業生。人々の所得向上のために、職業訓練(養蜂、洋裁、木工技術等の習得)を行っています。また、性的虐待を受けている女性や少女に職業訓練をし、生きていくための技術を身に付け社会復帰させるプロジェクトも行なっています。深刻な水不足を解消するために、「5,000ℓの貯水タンクの設置」を支援しました。貴重な水を無駄なく使い、本来の目的である種苗床、および緑の野菜作りを効果的に達成して、訓練は終了しました。訓練生のヴァイオレットからは、「有機農業の訓練後、化学肥料ではなく地元の資源を使用するようになり、収穫は大幅に増えた。5人の子供の栄養不良や、飢えに苦しむことがなくなった。将来は家畜も飼い、糞を肥料に使えるようにして収穫を増やしたい」という希望のメッセージも届いています。
 貯水タンク→	 収穫	*99年～ 毎年支援	
7 児童福祉計画 (Child Welfare Scheme)	ネパール	120,625 円 [16.12]	英国人のダグラス・マクラガン氏が1995年にネパール人の妻と共に、ストリートチルドレンを中心とした子供・青少年の支援を目的にNGOを設立。地方の村にヘルスセンター、アジャ・クリニックを開設。WFFは、ジョティ職業訓練センター(寄宿制と通学制の2年間コース)を長年支援してきました。2016年度も昨年に続き「コピラ・セーフ・ホーム」の職業訓練活動を支援しました。家庭内暴力の被害者や、精神病を患う人のための保護施設で、女性たちが休息を取り、リハビリを行なう安全な場所で、職業訓練や治療を適宜受けることができます。年間約40人の女性を支援、常時10人から12人の女性(16-60才)と子供たちが6-12ヵ月間滞在しています。
 コピラ・セーフ・ホーム		*02年～ 毎年支援	